



AA日本ニューズレター

NPO法人AA日本ゼネラルサービス(JSO)

No.162

■日本アルコール関連問題学会岐阜大会に参加して

昨年引き続き、日本アルコール関連問題学会の大会に参加しました。今年は岐阜市の長良川国際会議場を会場に3日間に渡って開かれました。昨年より、常任理事会ではアルコール関連の学会での広報活動に力を入れるようになりましたが、この日本アルコール関連問題学会は、その名前の通り日頃からアルコールに接している職業人の多く集まる機会であり、数ある学会の大会の中でもAAの存在を最もアピールすべき対象としています。

B類常任理事 中山(JSO・BOX-916担当)

AAはNPO法人として、今回もポスター発表を行いました。タイトルを「AAのメンバーシップサーベイに見るアルコール依存症者たちの実体と推移」として、過去2001年から2010年まで4回のAAメンバーシップ・サーヴェイの結果を比較することで、この10年弱にAAの中で起きた変化を明らかにしました。

まず特筆すべきは、女性メンバーの比率が20%(2001年)→26%(2010年)と増加していることです。これを地域別に見てみると、全国7地域すべてで女性の比率が増加していることがわかりました。背景に女性のアルコールの全般的な増加があるのか、それともAAが女性を惹きつけるように変化してきたのか、この調査から読み取る術はありませんが、「女性は回復が難しい」などと言われた時代を経験した者として隔世の感があります。(ちなみにアメリカ・カナダでの調査では、男女比は65対35)。

また、年代ごとの分布を見ると、男性は50代が最多になるのに対し、女性は40代が最多となっています。女性の方が10才ほど若くAAメンバーになっていることがうかがえます。

酒をやめている期間の長さの分布を見ると、最初の3ヶ月間は急減し、その傾向は3年まで続き、その後次第に減少が緩やかになっていきます。「まず3ヶ月、そして3年」というのが継続のひとつの目標になりうると考えられます。

メンバーの収入の手段を見ると、生活保護受給の比率が29%(2001年)→25%(2010年)とやや減少しています。2010年について酒をやめている期間の長さや収入の手段を比較してみると、1年未満では生活保護受給者が全体の3割を占めています。この比率は1～5年の範囲の集計でも変化無く、5年を過ぎて減少し、10年以上のメンバーを集計した結果では1割となっています。AAメンバーが生活保護から脱するためには年単位の期間を要していることがうかがえます。

1回のサーヴェイだけでなく、複数回を比較することで、変化を読み取ることができたのが今回の成果です。

ポスター発表は50件近くが林立し、同時進行する中で、AAの発表の前に二十数人が集まり、熱心に聞いていただきました。また発表の前後の問い合わせも多くいただきました。アンケート調査の収集の方法が科学的とは言えないという指摘を頂戴しましたので、今後の改善の課題となります。

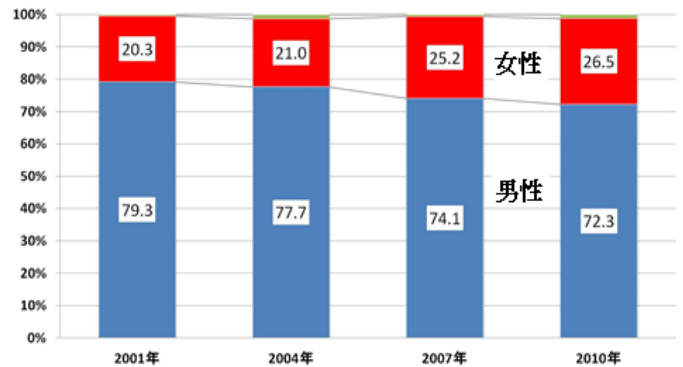
この他に、中部北陸地域の広報委員会を中心としたメンバーのご協力により、AA出版物の販売を行いました(販売額27,860円)。被災地支援の分科会の入口でAA資料の配布も行いました。

AAに毎年新しいメンバーが加わってくるように、アルコールに接する職業人にも毎年新しい人が加わります。その人たちに向けて、毎年AAの存在をアピールし、AAの内容を伝えていくことの必要性

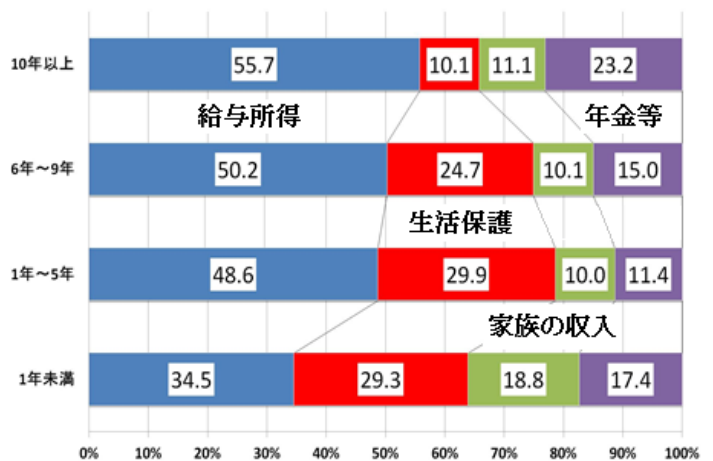
を感じます。来年は横浜大会として10月2日～4日にパシフィコ横浜で開かれることが決まっています。複数の学会の同時開催で、多数の関係者が訪れることが予想されます。折しもAA日本40周年集会の4ヶ月あまり前ですから、AA40周年をアピールするまたとないチャンスです。大会のタイトルも「当事者中心の新たな治療・支援を目指して(仮)」とまさに、私たちにぴったりのものです。ぜひ皆様のご協力をお願いします。

なお、最後になりましたが、ポスター発表の作成にあたっては、立案からデータ解析まで9月にJSOを退職された増田氏のご尽力によるものであること、申し添えておきます。感謝をこめて。

男女比の推移



お酒を飲まない期間と主な収入



■ 常任理事会より

常任理事会の上半期活動について

常任理事会議長 B類常任理事 服部

メンバーの皆様には日頃のサービス活動に敬意を表します。今夏は異常ともいえる天候不順が各地で起こりましたが、大変な思いをされた方には心よりお見舞い申し上げます。

さて表題のテーマをいただき、議長として上半期のご報告をさせていただきます。まず 2 月の評議会というAAの決定機関で決められました議案の勧告事項は12件ありました。4 月から始まる理事会年度においてこれまでの進捗状況について何点かに触れますと、改定された常任理事選出要綱については来年度評議会において承認を求められるよう関係書類を作成し提出いたしました。地域変更の手順書はすでに郵送しております。AAポスターの作成は公募を済ませて来年の評議会席上での選択を待つのみです。東北地域におけるラジオCMの実施は東北地域で委員を募り、地元情報を教えてもらいながら進め 10 月には大阪でプロのアナウンサーの録音が行なわれます。

また 3 年に一度のメンバーシップサーベイ(メンバー調査)の実施年でもありました。既に集計作業も終わり精査の段階です。報告書については評議会でもいただいたご意見を基に可能な限りコメントを記載させていただくつもりです。

4 月以降7月・9月と常任理事会を経過し、速やかに執行が進んでいることをご報告させていただきます。

その中、既に糟谷理事長からご案内がありましたように増田所長代行が退任なされ、村田事務局長が就任なさいました。増田氏には大変な時期に務められたことを本当に感謝申し上げます。村田氏には事務局長と引き続きの会計の業務をお願いいたしました。

近年の常任理事会では基盤である財務を中心に、これまでの運営や、現在あるものを適正に整理・整頓していく方向を確認し 2 年以上取り組んできました。これまで、ややもすると資産を取り崩さなければならない運営は将来に不安が残ります。理事会内で問題意識を共有し、そのための回避行動、立て直しを念頭にいった活動を目指しています。

それには構造的な問題を抱えてはいないか、それはどこで、どうすれば解消の方向へもって行けるのか。解消に向かう行動と同時に、我々の存在理由でもあるまだ苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶという目的に反比例していないか、効果効率が一番ではありませんが、執行にあたりそれらを含めての活動が理事会には求められていると思っています。

これまで以上に推し進めていきたいのは外部の支援者や関係者とお呼びしている方々への連携と協働ではないかと考えます。以前から重要課題だったのですが、医療関係者の学会などに積極的に関わり、なかなか忙しくAAミーティングに参加が難しい専門家の皆様へ直接こちらから伺う方針を強化しています。過去行なったことのない学術学会にも開催情報をいち早くつかみ、参加や資料提供の申し込みをして、地元のメンバーに協力をお願いしながら広報活動を行なっています。11 月には北海道と群馬県での学会に参加が予定されています。AAメンバーと同じに毎年、新しい専門家の方が我々の周りに誕生しています。毎年・毎回のように継続して、一人でも多くの AA の友人を増やしていくことの大切さを理事会では認識し、今後も積極的に行なっていきます。

9 月には郡山で東北地域広報委員会主催の市民セミナー『東日本大震災とアルコール問題』が開催されました。関係者から「AA にすぐ連れて行きたい人はいっぱいいる」とのお話にはショックを受け

ました。また回復者モデルのイメージがつかめない為に疲弊している支援者への支援を提案されています。宮城県の東北会病院さんからは気仙沼で、当事者、支援者、病院関係者のミーティング会場をつくりたいとの発言がありました。地元メンバーを中心に調整され、実現されることを期待しています。このことを 9 月の理事会で報告後、東北地域支援の一助となるべく資料提供を継続することが決議されております。

そのほかにも中央官庁への訪問は長い間の要望が実現したのですが、法務省や厚生労働省への訪問はすでに 4 年目に入り、今夏も村田事務局長と担当理事でご挨拶に行ってきました。「常任理事会でしかできない仕事をしてください」とのメンバーからのお声を受け止め、こちらのルートは確立され、今後も継承されていくことでしょう。他にもアルコール関連の支援団体である各 NPO 法人への訪問などを重ね、AAとの連携や協力体制などについて意見交換を行ないました。更に専門家に向けた BOX-916(月刊誌)の贈呈先については、全国すべての「こころの健康センター」と「精神保健福祉センター」に郵送するために BOX-916 郵送先の見直しが 9 月期の理事会で了承されています。

新年度になり担当理事をはじめメンバー間でより活発になってきたものにAA日本40周年記念集会開催に向けた活動が挙げられます。こちらは全グループに自由参加をもとめた献金での予算計上の方式を採択した結果、今回の目的の一つである関係者やご家族などすべての参加者について全員無料で入場してもらい、予約も不要という催しものです。日時は 2015 年 2 月 20 日(金)~22 日(日)の三日間。場所は横浜の神奈川県民ホールをメイン会場にすることが決まっております。プログラムの詳細はまだ未定ですが、実行委員会では関係機関の皆様方にも関心を持っていただけるプログラムを鋭意作成中ですのでどうぞご期待ください。詳しくは JSO のホームページ上で随時公開予定です。

■ 各地域より

2013年関東甲信越地域春季ラウンドアップを終えて、 そして終わらないラウンドアップのために 春季ラウンドアップ実行委員長/ラウンドアップ副委員長 まさや

2013 年 5 月 10 日(金)~12 日(日)、群馬県みなかみ町の温泉旅館水上館にて関東甲信越地域の 2013 年春季ラウンドアップ(以下 RU)が開催されました。メインテーマは「新しい出会い~希望∞(無量大)」

参加者数は 339 名。関東甲信越はもとより、北海道、東北、関西、九州、沖縄、モンゴルなど各地から大勢の仲間に参加頂きました。その中には医療関係者 4 名およびメンバーご家族 8 名、RU初参加の AAメンバーが 40 名以上もいて、テーマ通り様々な新しい出会いの中でアルコールを飲まないで生きる希望に満ちた 3 日間となりました。医療ならび行政機関、会場となった水上館ほか関わって頂いた全ての皆様にお礼申し上げます。また 11 日には開催地群馬県の赤城高原ホスピタル副院長の村山昌暢先生をお招きし講演していただきました。ご多忙の中お越し頂いた関係者の皆様にはかさねて感謝申し上げます。

ここで関東甲信越地域の RU について少し紹介させていただきます。地域主催の RU は他地域に先駆け 1986 年に埼玉県越生で第 1 回が開催されて以来 5~6 月頃の春季と 10~11 月頃の秋季の毎年 2 回行われています。最初の数年は地域委員会、その後数年は地域のサービス委員会であるラウンドアップ委員会が主体となって開催されていましたが 1996 年以降は毎回開催担当の地区を募り、5 月と

10月の地域委員会で翌年の開催担当地区が決定され担当地区が実行委員会を立ち上げます。ちなみに今年は春季が東多摩地区で秋季は埼玉西地区が担当でした。

関東甲信越地域には現在24地区(250G)が存在しますが、開催担当地区が毎回すんなり決定するとは限りません。私が初めてRU実行委員を経験した2011年の長野県白樺湖で行われた春季RUがまさにそうで地域RU委員の懸命な働きかけにも開催立候補地区が最後まで現れず中止も検討されつつ16年ぶりに地域委員会の下に直接実行委員会が設置された回でした。(ニューズレターNo.149に当時の地域RU委員長で実行委員長を務めたYさんの当時の苦労がリアルに書かれています)

当時ソーバーがまだ2年でサービス経験の少なかった私はこのことの意味がよくわかっていませんでしたが、自分が地区委員として地域RU副委員長となった今はYさんが開催に対する責任感で苦しかった当時の気持ちがよく理解できます。

ともかく当時の私はそんな地域の事情とは関係なく、AAに対する情熱のある沢山の他地区の仲間達と出会うことができ、副実行委員長と企画担当をやらせてもらう中で責任と新鮮なサービスの喜びを感じるのと同時に、グループや地区を超えた地域の一体性を実感し信じていることができるようになりました。

そして昨年私に東多摩地区議長の役割が与えられた際、自らのRU実行委員の経験から、RU開催は地区自体が成長し活性化するチャンスと信じ、地区委員の賛同も得て副議長らと議長団提案として2月の地区委員会でRU開催立候補を提案しました。当初は慎重派や反対を表明したグループもありましたが、翌3月地区委員会に地域RU委員と2012年春季RUの開催担当だったにし城西地区の実行委員長をお招きし詳しく話を聴き、恐れや不安を解消することができ、4月に再度採決をした時には地区全8グループのうち参加していた7グループ中賛成5、反対0、保留2で地区の良心として開催立候補が決まりました。

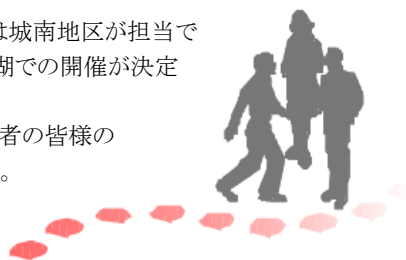
春季RUが終わった今振り返れば、開催まで1年以上の実行委員会活動を通じ、他地区メンバーとともに多くの仲間が地域の一員として一つの目的に向かって役割を持って関わる中で、ラウンドアップに関わらず様々なサービスに関心と情熱を持ってくれる仲間がまわりに増えたことはグループ、地区、地域の希望であり財産です。今秋担当の埼玉西地区でも来春担当の城南地区を見ても、それぞれの役割の中で新しい仲間が同様にサービスの喜びに目覚め成長するのを目の当たりにし嬉しく思います。

今年の地域ラウンドアップ委員会は私を含め6名です。回復・一体性・サービスとAAの要素が詰まったこのイベントを開催する意義と喜びを各地区に伝え開催立候補を促し、実行委員会が立ち上げればサポートしていくことが地域の中で私達に与えられた役割です。ぜひ多くの地区の仲間と輪番制の中でRU開催を地区の一体性と成長の機会と捉え担当地区となる喜びを味わって頂きたいと思っています。

なお、今年の11月2日には初の試みとして群馬で地域RU委員会主催でラウンドアップフォーラムを開催しますので興味ある仲間にご参加ください。

最後に2014年春季RUは城南地区が担当で5月17～19日山梨県河口湖での開催が決定しています。

全国の仲間の皆様、関係者の皆様のお越しをお待ちしております。



■アノミティについて

アノミティ破りにAAはどのように対応すべきなのか？

NYGSOニューズレターBOX4592007Apr/Marより翻訳し再録

有名な映画スターがテレビで「AAで見つけた新しい人生」について熱く語り、町の資金に手をつけて逮捕された政治家は新聞で「酒とドラッグがこうさせたのだ。しかし今私はAAミーティングに通っている…」と語る。また、著名な作家は自身の体験をもとに、「アルコールクス・アノニマスにおける癒し」という本を出版し、“自分のような人たち”を助けるために書いたのだと述べる。そして半年後には、彼が“再飲酒”したことがメディアで報じられる。年に何百回と起こるこのようなアノミティ破りに対して、どのような対応ができるだろうか？

GSOには、共同創始者のビルWが「靈的に生き残るための鍵」と呼んだ大切な伝統であるアノミティを破ることへの懸念を綴ったAAメンバーたちからの手紙が寄せられている。理事会の広報委員会は毎年、全国のラジオ・テレビ局、通信社、新聞社に、公のレベルでのアノミティ(無名性)の伝統について説明した手紙を送付している。また、英語、フランス語、スペイン語の出版社や、黒人コミュニティ向けの出版社にも送られている。多くの地域が、地元の広報委員会によって印刷されたこのメッセージを、地域のメディアに対して送付している。

「アノミティ(無名性)」という見出しで始まるこの手紙には次のように書かれている。「アノミティは私たちの共同体の靈的な基盤であり、メンバーの回復について秘密が守られることを保証するものです。飲んでいるアルコールというものは、自分の身元が明かされる危険のある者からの助けは受け入れないことが多いのです」

続けて、「メディアのみなさまには、引き続きご協力いただけますようお願い申し上げます」とあり、「メディアで紹介するAAメンバーの名前はファーストネームのみとし、個人が特定できるような写真は使用されないようお願いいたします」と書かれている。

「世界中で」手紙はこのように締めくくられる。「メディアにおける好意的な報道は、アルコールクたちがAAにつながるための主要な手段となっています。ご協力くださるみなさまに心より感謝申し上げます」アノミティが尊重されないような事態が起きたときには、関与した出版社や放送局に手紙を送る要請がメンバーからGSOに寄せられる。しかしながら、公のレベルでの伝統を守る責任は個々のAAメンバーにあるということが、長いあいだAA常任理事会と評議会で合意されてきたことである。

広報委員会の担当者は、アノミティを破ったメンバーが住んでいる地域の評議員に手紙を書く。例えば、新聞でアノミティが破られた場合、評議員には、その記事のコピーと、当事者であるメンバーに対してアノミティの伝統について丁寧に説明するよう提案された内容の手紙が送られる。評議員から依頼された場合にのみGSOが手紙を書く。

センセーショナルな報道が盛んだった時代、広報委員会はAAを世間の論争から遠ざけておくことに成功した。しかし何人かのメンバーたちは、AAはたくさんのアルコールクたちの人生を救ったのだから、アノミティをかたくなに守るのはおかしいと考えていた。彼らはまた、活字や電子メディアは、強いインパクトと共に情報を与えることができ、身近な問題として示すことができるため、アノミティの伝統によって現実味が半減してしまい、それゆえに、今苦しんでいるアルコールクに共感をもたらすことができないのではないかと懸念した。

しかし、私たちの伝統の知恵を受け入れている他の多くのメンバーたちは、AAにおける個人の回復が第一であると指摘している。さ

らに、メンバーにとって、アノミティに関する伝統は、私たちの自我を縮小させ、権力と名声を求める衝動を和らげるためにある

つまり私たちのソブラエティを保つためにあるのだということを理解している。アノミティがあるにも関わらず、200万人以上のアルコールがAAにたどり着くことができた。言い換えれば、アノミティあるからこそ、それは果たされてきたのであり、これからさらに多くのアルコールたちがたどり着けるだろうと記している。

AAイベントにおける写真撮影について： シャッターを切る前に考えよう

“BOX459 Feb.07 Taking Pictures at AA Events”より翻訳し再録

今日では、携帯電話を取り出すように簡単にカメラを取り出し、AAイベントで仲間にピントを合わせることも容易になった。同じように、伝統11も簡単に脇へ追いやられている。「私たちの広報活動は、宣伝よりもひきつける魅力に基づくものであり、活字、電波、映像の分野では、私たちはつねに個人名を伏せる必要がある」しかし実際には、この伝統は試練に立たされ続けている。

ニューヨーク南東部の評議員ルース・Hは、1974年の全国評議会ですべてのように述べた。「最近、あるメンバーが、バースデーミーティングで撮影の許可を求めずに、すべてのテーブル席を1枚の写真に収めたことがありました。結婚式のように、バースデー者(AA経験が長い)とスピーカーが、一緒にケーキを切っている様子も撮っていました。撮影の許可を得たかという問いに対して、このメンバーは、「これは私のホームグループですし、私のカメラです」と答えました。ルースはもう一つ、例を挙げた。「あるメンバーがバースデーを祝ってもらっている様子が写真に撮られました。彼は無意識に、自宅のテーブルの上にこの写真を置いたままにしていました。近所の人々が来て、その写真に写っている人を指さして、「この人がAAにいるとは知らなかった」と言ったそうです。」

ルースは次のように報告した。「このようなことが起きたため、地域集会で取り上げられました。数人の意見は、「どうせ酔っぱらった姿はみんなに見られている。隠す必要があるのか？」というものでした。しかし多くのメンバーが、「新しいメンバーを怖がらせてしまうかもしれないし、次回のバースデーミーティングにカメラを用意しようとする人がいるかもしれない」という意見でした。私たちの地域委員会は、伝統1、11、12に基づいて、そこにいるメンバーの無名性を守るため、また新しいメンバーを怖がらせないために、いかなるAAミーティングにおいても写真撮影しないことを、「非常に強く提案し、審議の結果、地域集会はこの動議を可決しました」

今日では、AAイベントでメンバーの写真を撮ることについては、全面的にグループの良心に任されている。年次評議会の閉会前後では、多くの写真が撮られているが、全体の分かち合いの時間に撮られることはない。GSO 職員の一人は次のように述べた。「AAの経験が示すところによると、こういった判断というのは、グループの良心をはかった結果、導き出されるべきものでしょう。仮に、グループの良心が写真を撮らないということで一致した場合、全体としてのグループにその判断を告知することが賢明でしょうし、一度だけでなく定期的に行ったほうがいいでしょう。」

そして、どのような場合においても、一人またはそれ以上のメンバーの写真を撮る前には、まず、彼らやグループの適任者から許可をもらうことが提案されています」

繰り返すが、AAメンバーにとって公の目にさらされることは、私たち個人のソブラエティにとって危険である。また、私たちが公のレベルにおいて無名性を放棄し、その結果飲んでしまうことは、共同体の存続にとっても危険であると、経験は示している。とはいえ、共同創始者であるビルWはこのように指摘している。「AAが何らかのかたちで、広く知られるようにしなければならないことは確かだった。そこでこれを私たちの代わりに、友人たちにやってもらった方がはるかに効果があるという考えかたを取るようにした」(『AA成年に達する』P.198)つまり、その友人たちの中から選んだのが、7名(訳注:アメリカ/カナダの場合)のノンアルコール理事である。彼らはカメラに正面から顔を向けることができるし、彼ら自身やAAを脅かすことなく、フルネームを名乗ることができる。そのようにして彼らは、アルコールの悩みを聴き、癒すことのできる専門家と共に、苦しんでいるアルコールにAAメッセージを手渡すことができるのである。

広報ワークブックの一節には、「メディアを通じてメッセージを運ぶ:インタビューにおけるアノミティ」に関するガイドラインが載っており、次のように提案されている。ラジオやテレビ、インターネット上で、AAメンバーが個人として特定できてしまうような場合には、「インタビューと慎重に打ち合わせをして、フルネームを使わないことや、個人が特定できないようにすることが安全だと気づくだろう。1968年の評議会では、次の動議が出された。『正面を向いてテレビに出演することは、たとえ名前を明らかにしていなくても、アノミティに反する』」。しかし次のようにも言及している。あるAAメンバーが、一人の回復中のアルコールとして、AAメンバーであることを打ち明けることなく公の場に出るとき、「アノミティの問題は発生しない。そのAAメンバーは他のゲストと同様に、フルネームを名乗り、正面から映ることができる」。

大切なことは、「AAメンバーとして、アノミティを守りながらインタビュー番組に出演するときには、事前にインタビューアークにこう説明しておく。AAメンバーである自分は、専門家としての資格を有していないし、アルコールリズムという病気やドラッグ、自殺率などについては語らない。発言は、AAプログラムに関することだけに留める」ということである。広報ワークブックはまた、「AAメンバーの意見は個人的なものであり、共同体を代表するものではない」と前置きしている。一般的には、次のことを強調している。「AAの唯一の関心は、(私たちに助けを求めるアルコールの)回復とソブラエティの継続である」、そして「AAメンバーとして話すときには、AAは外部の問題に意見を持たないということを慎重に伝える」。

AAのアノミティという伝統について熟考したビルは、1948年10月号のグレイプバインの中で、このように述べている。それは皮肉だけれど率直で今でも響き渡っている。「……私たちの友人の中には、酒を飲む人もいれば飲まない人もいる。右寄りの人もいれば左寄りの人もいる。いずれにせよ彼らは良き友である。どの分野でも言えることだが、私たちはときどき、公の場ではないにしても、物議的になってしまふことがある。報道やラジオの関係者たちは、本当によく理解を示してくれるため、私たちは甘えてしまっているようだ。私たちの評判はすでに、実際の姿よりはるかにいいものになっている」。

編集・発行： NPO 法人 AA日本ゼネラルサービス (JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 3F Tel:03-3590-5377 Fax:03-3590-5419

<http://www.aajapan.org> jso-11@fol.hi-ho.ne.jp

(月～金) 10:00～18:00 (土・日・祝) 休